

公開シンポのご案内

福島原発事故から5年目を迎え、政治や経済の動きは、私たち農民の願いとは異なった方向に動き出してきました。27%（日経電子ニュース）の得票率で支えられた今の体制が今後とも日本の主流になるとは思えません。原発依存体制から再生可能エネルギーへの転換やTPP体制から地産地消による自給率向上運動への動きは決して止めることはできない底流を形成していくものと思います。

封建制度を覆し近代資本主義を実現した社会的目標が富国強兵・産業育成・富の蓄積であったのに対し、TPP体制からの脱却は「食の安全と命・生活環境の再建」を中心テーマにその改善がテーマになり、子供や孫たちを含めた3世代に亘る奮闘努力によって実現していくものと思われます。私たちは迫りくる困難にどう対処すべきかを子供たちに示す必要があります。その回答は「有機農業によって基本食料の7割以上を確保する地産地消システムの構築」にあると思います。

私たちは原発による広範な放射能汚染を解決するために、グリーンオイルプロジェクトを立ち上げ、代かき除染や油脂作物による除染を提案し、安全で栄養価の高い植物油を生産、農家経営を再建しながら粘り強く運動を展開してきました。農業高校生を始め、地域の皆さん、生協の方々、研究所の皆さんの支援のお蔭で、採算ベースに乗りつつあり、運動を継続することができました。同時に3年前からネオニコチノイド系農薬による子供たちに広がる発達障害やミツバチや赤とんぼなど生物の多様性喪失の実態を学び、その問題を抜本的に解決する方法として慣行栽培を超える「誰でもどこでもできる有機農業」の普及や「なたね、ひまわり」などの除染作物やソバなどを通年栽培するミツバチ救出運動を提案してきました。

今回の公開シンポ第Ⅰ部ではアジア全域に広がりつつあるヒメトビウンカによる縞萎縮病とトビイロウンカによる坪枯れなどの防除に大量のネオニコチノイド系農薬やフィプロニル農薬が使用され耐性ウンカが生まれ、化学農薬では被害を食い止めることが出来なくなったなかで、中国江蘇省鎮江市の地域ぐるみの有機農業によって克服した事例を参考に、「生物多様性防除（IBM）」の手法を確立し、有機栽培で慣行栽培を超える栽培技術を完成する可能性を提案したいと思います。

第Ⅱ部ではネオニコチノイド系農薬問題に関する世界的動向とそれに背を向ける日本の対応の背景と私たちの取り組みについて岡田幹治氏の御講演を頂き、次いで福島原発の事故から4年目に入って、新たに広がった汚染の実態とその対策、農業再建の可能性を河田昌東氏にご報告頂き、汚染防止のための手法と代かき除染や植物除染の効果、ミツバチ救出の可能性を含めて被災地域の経営再建の展望を話し合っていきたいと思います。特に放射能汚染地域の除染を兼ねた油脂作物の生産は遺伝子組み換えなたねと大豆の大量輸入によって生産されている我が国の油脂生産を根本から立て直し、食と環境への遺伝子汚染を抜本的に解決しようとする試みでもあります。

第Ⅲ部ではTPPによる食と環境の破壊に対抗し、有機農業を核とした地産地消による地域経済の再建をめざす取り組みを大江正章氏に提案して頂きながらその可能性と意義を各分野からご報告頂き、食と健康・地域の文化と経済の再建を考えたいと思います。

夕食懇親会では会員のみなさまが生産する有機米や有機日本酒・有機地ビール・有機食材などを持ち寄り、試食会を実施したいと思います。出品可能な方は事前にお知らせ下さい。みなさまの貴重な品々を肴に親睦を深め、英気を養っていききたいと思います。

記

1 日時 2015年2月15日(土) 13:00 ~ 16日(日) 12:30

2 会場 コンセーレ 栃木県宇都宮市駒生 1-1-6 TEL:028-624-1417

3 締め切り 2月6日(金)期限厳守。定員150名になり次第締め切りと致します。

# 公開シンポの日程と内容

2月14日(土) 12:00~13:30 ブース展示・即売

13:00~13:30 受付 13:35 開会あいさつ

## 第Ⅰ部 慣行栽培を超えた「誰でもどこでもできる有機農業の新展開」

(13:35~15:30 進行 川俣文人・館野廣幸)

基調提案 有機稲作の到達点と栽培技術完成のための課題 稲葉光國(NPO 法人民間稲作研究所)

報告1 中国鎮江市の実践に学ぶウンカ被害克服技術 張 安明(農文協)

報告2 慣行栽培を超え、安定多収を実現してきた有機稲作 伊藤正巳(宮城県大崎市)

報告3 モミガラ燻炭を使った抑草と食味・収量の安定対策 中道 唯幸(滋賀県中主町)

報告4 最終分けつの伸長条件に関する考察 佐藤 匠(民稲研修生)

報告5 温水防除の効果に関する報告(その2) 松本 嗣夫(宮崎アグリアート)

総合討論(有機農業による安定多収技術と農薬汚染克服の展望)

## 第Ⅱ部 ネオニコチノイド・放射能汚染と向き合った農業者の戦い

(15:40~18:30 進行 稲葉 光國:古谷慶一)

特別講演 「世界ですすむネイニコチノイド系農薬規制—EU・米国・日本の対応は—」

フリーライター 岡田幹治氏

特別講演 放射能の新たな汚染拡散の実態と菜の花栽培による農業再建の可能性

チェルノブイリ救援中部理事 河田昌東氏

報告1 レンゲ・なたね・ひまわり・ソバの有機栽培によるミツバチ救出運動 杉山修一

報告2 田畑の除染・ミツバチ救出・非GM肥料とグリーンオイルプロジェクト 国弘・稲葉

報告3 放射性廃棄物の最終処分場設置問題をめぐって 大木一俊

(総合討論 農薬・放射能汚染克服の展望)

18:30~19:00 チェックイン手続き

19:00~21:00 夕食・懇親会(有機米・有機地ビール・有機日本酒・うどん・そばなどの試食会)

21:00~ 2次会 若手農業者・研修生交流会・「DVD放射能汚染からの農業再建」鑑賞会

## 第2日目(15日)

### 第Ⅱ部 生物の多様性を育む農業を核とした地域自給の試み—その歴史的意義

(9:00~12:30 進行 富居登美子・稲葉光國)

特別講演「TPPによる農業破壊に対抗する食と地域経済の再建の試み」

コモンズ代表 大江正章氏

報告1 日本型直接支払の法制化と環境保全型農業直接支払の意義

齊藤 光明(NPO 法人 オリザネット理事長)

報告2 有機稲作チャレンジプロジェクト・マイオイル運動について 堀井正明(朝日新聞 記者)

報告3 千葉県いすみ市の有機栽培米100%学校給食の取り組み

矢澤喜久雄(峰谷営農組合長)・鮫田(いすみ市農林課)

報告4 浦和めぐみ幼稚園の発芽玄米食の試み 川部(管理栄養士)

報告5 アジアに集中する農薬汚染克服の取り組み—ブータン王国との技術協力 田坂興亜

(総合討論 TPPで食べ物にされる食と健康、その対抗軸を考える)

閉会のあいさつ 館野廣幸

# 公開シンポ参加申込書

参加予定者も締切 2月6日までに必ず fax して下さい。fax 0285-53-1133

氏名 \_\_\_\_\_ 電話 \_\_\_\_\_

住所 〒 \_\_\_\_\_

参加するシンポの参加金額を○で囲みファックスして下さい。3日前からのキャンセルは全額料金支払となりますのでご注意ください。なお資料のみご希望の方は1000円で頒布します。

		14(土)			15(日)	
		総会	第ⅠⅡ部 技術・放射能・ 農業汚染 13:45~18:30	試食・懇親会 19:00~21:00	宿泊	第Ⅲ部TPPと地域再生 9:00~12:30
会員	全日程	16,000円(1日目の弁当代を含む)				
	部分参加	3,000	5,000	5,000	2,000	
非会員	全日程	18,000円(1日目の弁当代を含む)				
	部分参加	4,000	5,000	5,000	3,000	
15日の弁当代希望		1 希望する(1000円)		2 希望しない		

※ 申込確認後 郵便振替用紙を発送いたしますので内容をご確認のうえご入金下さい。

問合せ先 NPO法人 民間稲作研究所 栃木県河内郡上三川町鞆堂 72  
Tel/fax0285-53-1133 メール [urata@inasaku.or.tv](mailto:urata@inasaku.or.tv) 担当 浦田・稲葉

## 会場 (コンセーレ) 案内図



〒320-0066 栃木県宇都宮市駒生 1  
町目 1 番 6 号  
財団法人栃木県青年会館  
電話028-624-1417  
FAX028-624-1843 E-mail :  
concere@olive.ocn.ne.jp

- < 交通のご案内 >
- 東北自動車道
    - 東京方面からは鹿沼ICより9.5km
    - 仙台方面からは宇都宮ICより9.0km
  - JR宇都宮線宇都宮駅
    - 関東バス[作新学院駒生]行き(⑥⑦番のりば)東中丸バス下車(コンセーレ前)
  - 交通機関料金
    - バス ( JR宇都宮駅 ~ 東中丸 ) 200円
    - タクシー ( JR宇都宮駅より ) 約1,700円